

令和6年度第3回越谷市生涯学習審議会会議録

1. 期 日 令和7年(2025年)3月13日(木)
2. 会 場 中央市民会館5階 第4～6会議室
3. 開 閉 会 開会 午後2時
閉会 午後4時
4. 出席委員 26名
板川委員、会田委員、宮園委員、山口委員、宮崎委員、戸張委員、杉山委員、
島村委員、佐々木委員、中村(良)委員、石塚委員、石橋委員、西村委員、
飯島委員、濱野委員、星野委員、小林(昌)委員、夏目委員、岡本委員、北畠委員
青山委員、織田委員、小林(威)委員、小林(大)委員、住田委員、真壁委員、
5. 欠席委員 5名
中村(英)委員、中田委員、若菜委員、計良委員、吉川委員
6. 事務局出席者
小泉教育総務部長、川澄教育総務部副参事兼生涯学習課長、
福井 桜井公民館長、中村(則)新方公民館長、前田 増林公民館長、
綿引 大袋公民館長、谷口 荻島公民館長、中村(清)出羽公民館長、
新井 蒲生公民館長、清水 川柳公民館長、飯田 大相模公民館長、
齋藤 大沢公民館長、山納 越ヶ谷公民館長、内田 南越谷公民館長、
平林 北越谷公民館長
生涯学習課：北郷副課長、野中主幹、堤主幹(統括)、新井主幹、細井主査、
河井主事

会 議 次 第	
1	開 会
2	あいさつ
3	報告事項
	(1) 令和6年度事業報告について
	(2) 令和7年度越谷市教育行政重点施策の重点事業について
4	そ の 他
	(1) 埼玉県市町村社会教育委員会連絡協議会の今後について
5	閉 会

会議内容

1 開 会 北郷副課長（司会）

令和元年度から3期6年にわたり委員をお務めいただいていた出羽公民館運営協力委員会選出の大野良夫委員が令和7年2月1日にご逝去されたことを報告する。

2 あいさつ 青山会長 小泉教育総務部長

3 報告事項

（1）令和6年度事業報告について

①社会教育について

○議 長 事務局に説明を求める。

○事務局 アについては資料のとおり開催し、本市からは11人出席し、イについては本審議会より越谷市人権教育推進協議会に選出の石塚委員が出席したことを報告する。（イ）の人権講演会については、一般参加や団体選出等で多くの方に参加いただき、本審議会委員でも参加した方が多くいることを報告した。

○議 長 出席委員に補足等を求める。

○委 員 ※出席した委員から以下のとおり感想が述べられた

ア 東部地区社会教育関係委員・職員研修会について

- ・行田市の実践発表ではジュニアリーダーが、相手がうまくできたら褒めるという事を積極的にやっている事が印象に残った。幼い頃から褒められるという経験があれば、郷土愛も醸成できるのでは。
- ・三郷市の実践発表のベビーマッサージに関する取り組みについて、教えている方々は高齢の方が多いが、そこに若いお母さんたちが来て、若いお母さんたちのつながりができるだけでなく、教えている高齢の方と若いお母さんたちとのコミュニケーションが生まれることで、世代間の交流ができているということが非常に意義深いと感じた。
- ・文教大学理事長の野島先生の講演にあった「ウェルビーイング」という言葉について、この言葉からいろいろなものが派生して、教育改革の柱になっていくのかと思った。
- ・越谷市の方にもっと参加していただきたいと思った。
- ・市民大学の講師として野島先生に来ていただきたいくらいよい講演

だった。

イ（ア）埼葛地区人権教育指導者研修会について

- ・自身もヤングケアラーだった講師の講演であり、家族のケアを社会がどう支えていくのか、たくさんの支援の糸を垂らしていきたいと話されていた。

（イ）人権講演会について

- ・多くの経歴をもつ講師で、話術が巧みであった。「あん」は差別を受けながらも尊厳を失うことなく生きようとしている人のドラマであり、様々な気づきがあった。

②公民館について ア 公民館主催事業

○議長 事務局に説明を求める。

○事務局 各公民館長から令和6年度の特色ある事業等について資料1に基づき報告する。

○議長 委員に質疑等を求める。

○委員 1月29日の東部地区社会教育関係委員・職員研修会での三郷市の実践発表において、公民館を気軽に訪れるきっかけになるということでスマホコンシェルジュ事業を報告されていた。大沢公民館と荻島公民館でスマホ講座をされており、講座は大変ありがたいが、スマホを用いた市の申請などのちょっとつまづく部分を、公民館で気軽に聞けるような取り組みがあるとよいのではないかと。

②公民館について イ 生涯学習課との連携事業

③家庭教育について

④その他生涯学習の推進について

⑤文化振興事業について

○議長 一括して事務局に説明を求める。

○事務局 会議資料に基づき説明する。あわせて、以下の事業について補足説明する。

「二十歳のつどい」について、当日の出席率は73.6%という結果になり、昨年度より0.3ポイント増加した。企画・準備から当日まで各地区実行委員会の皆様にご協力いただき、若者が地域との交流を通じて社会の一員としての役割や責任を自覚する貴重な機会となった。

「中学校子育て講座」について、全校講義形式で実施し、講義内容は

各中学校により異なるが、共通資料を全校の保護者に配付した。資料は外国人世帯の方向けに英語版でも作成しており、各中学校へ配布した。

「生涯学習ボランティア養成講座入門編」では、地域で実際に生涯学習活動を実践している団体として「越谷市生涯学習推進会」および「こしがや地域ネットワーク13」のメンバーにお越しいただき、受講者との交流の場を設け、地域活動についての基礎知識を習得していただいた。生涯学習ボランティアというものを身近に感じ、具体的な活動内容を知っていただけるよい機会となった。

「こしがや市民大学」について、第2期講座は現在開催中のため、受講決定者数を掲載している。

「生涯学習フェスティバル」は、越谷市生涯学習推進会との共催により開催し、延べ3,337名の方に様々な体験ブースにご参加いただいた。一般の方、大学生、高校生など、多くの市民ボランティアの方にもご協力いただいております、今年度は初めて南越谷のCAD製図専門学校からお声がけいただき、そちらの学校に通う留学生の方もボランティアとしてご協力いただいた。参加いただいたボランティアの方からも、世代を超えて交流ができ、よい体験になったとのお声をいただいております、今後も生涯学習の担い手育成に取り組み、循環型生涯学習社会を推進していきたい。

「越谷市民文化祭」については、イベントや展示を観覧するだけでなく、今年度は華道の体験コーナーも追加で開催した。できるだけ実体験をしていただくことで、ものづくりや作品の達成感を参加者に味わっていただくよう企画した。

文化総合誌「川のあるまち－越谷文化」の発行については、まもなく刊行予定の43号から電子申請による郵送販売等を含めた販路の開拓を行い、今後より多くの販売ができるよう販売促進活動を行う。自身の作品が掲載された書籍を手にとることの喜びを感じ、作品のさらなる制作意欲につながると考える。

「郷土芸能祭」については、一般来場者も参加いただけるように、今年度は、当日の舞台上で来場者の希望者にも和太鼓を体験いただく時間を設けた。また、郷土芸能保存団体が保存、獅子舞の実演に使用している獅子頭の展示コーナーも昨年に引き続き設置し、演目の合間の時間を

利用して、数多くの市民に楽しんでいた。

○議長 委員に質疑等を求める。

○副議長 生涯学習のリーダー・ボランティア養成講座について、養成された方が活躍できるような場を行政側は提供してるのか。

○事務局 今年度はボランティア養成講座の後半に「越谷市生涯学習推進会」と「こしがや地域ネットワーク13」の方に入っただき、グループに分かれて会の活動紹介や案内をしていただいた。ボランティア養成講座後に生涯学習フェスティバルのボランティア募集が始まるため、その案内は毎年しており、こしがや市民大学企画運営委員の改選の年には、その案内もしている。

○副議長 実際に活躍されているかどうかの把握はしているか。

○事務局 昨年ボランティア養成講座に来ていただいた方が生涯学習推進会にご入会いただいた実績があり、生涯学習フェスティバルでは、いつも3～4名の方にボランティア参加していただいている。

○副議長 養成だけして活躍の場を提供できてない行政もあるため、そのような状態があるということで安心した。

○委員 昨年度のボランティア養成講座に参加された2名が生涯学習推進会に入会し、今年度の生涯学習フェスティバルでは企画の中に入って、来場者の方たちに教える側の立場にもなった。これは続けていただきたい事の一つである。

(2) 令和7年度越谷市教育行政重点施策の重点事業について

○議長 事務局に説明を求める。

○事務局 会議資料に基づき説明する。

第2回審議会で案を示したが、3月24日の教育委員会会議において協議・決定されることを説明する。

○議長 委員に質疑等を求める。

○委員 9ページ目の「各種学級・講座の開催」予算額が拡充となっており、「TRY」の発行回数が増えて、周知の機会が増えるということだが、こしがや市民大学企画運営委員について、現在2年に1回ボランティアを入れるという形になっているところ、その機会を増やすことは考えているか。

○事務局 現在、企画運営委員は2年に一度募集し、任期2年としているが、募集

期間以外でも希望者がいたら拒否せず話を聞く考えではいた。企画運営委員から要望が多いようであれば、今後通年募集を検討してもよいと考えている。

○委 員 やはり、固定された人数でやると、提案内容も偏ってきてしまうので、市民の皆様を提供するということを考えると、ネットで人気投票するなど、新しいやり方を取り入れることを今後も検討していくことができたらと思っている。

○議 長 企画委員というものは、流動性がなかったり、新しい人たちが入ってきづらいというところもある。任期を短くするという話ではなく、入るチャンスを増やすというイメージでよいか。

○委 員 希望としてはそのイメージである。自身も2年の任期の3期目で、一緒に入った方がみんな辞めて1人しかいなくなってしまったので委員長をしているが、企画委員になれる機会が増えれば、もっとやりたい方や若い方が、毎回出席するのは難しくても気軽にやってみようとなり、ボランティア参加の機会が増えるのではないかと思う。

○議 長 「TRY」について、発行回数を3回にすると情報量が増えると思うが、紙版を手にとらない人も多いのではないか。誰が読むかにもよるが、作った内容を紙以外でも伝えていく方がよいと思う。「TRY」のネットでの発信はしているか。

○事務局 「TRY」を発行するタイミングで、市のホームページにもPDFで公開している。

○議 長 市のホームページからPDFをダウンロードして見ている人は、紙を読む人よりさらに少ないと考える。情報発信を強化するのであれば、内容が増える分、届けるところにも力が入れられるとよい。

○事務局 市の周知方法として、Cityメール、市の公式LINE、XなどのSNSがあるため、そちらでの情報発信も検討したい。

○議 長 内容も充実しており、市報と一緒に届くというのもすごく重要だと思う。公民館や図書館などは、常連が集まりがちな施設であるので、様々な方に届くようになるとよい。

○委 員 日頃の子ども会活動において、部屋を貸していただいたり公民館が多大に応援してくださっていることに厚くお礼を申し上げる。先ほど東部地区社会教育研修会の実践発表でジュニアリーダーの話が出たが、子ども会で

もジュニアリーダーを育成しており、先日の県のかるた大会でもジュニアリーダー、中学生、高校生、大学生が読み手や進行係を立派に10試合務めてくれたことを報告する。

4 その他

(1) 埼玉県市町村社会教育委員会連絡協議会の今後について

○事務局 資料13ページに基づき説明する。

越谷市は、埼玉地区内の11市町（宮代町除く）の相互の連絡を図り社会教育の振興を図ることを目的に、各市町の社会教育委員および社会教育関係者をもって組織される「埼玉郡市社会教育振興会（以降、「埼玉振興会」と略す）」に加盟している。第1回審議会において報告のとおり、令和6・7年度の2年間、越谷市は輪番制により「埼玉振興会」の会長及び事務局・幹事を担当し、当審議会の青山会長に「埼玉振興会」の会長を務めていただいている。

「埼玉振興会」の会長及び幹事は、令和6・7年度の2年間、同じく輪番制により、各地区組織で構成する「埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会（以降、「県社連」と略す）」の副会長に該当し、青山会長に「県社連」の副会長も勤めていただいている。

当審議会委員の皆様は、「埼玉振興会」「県社連」とともに直接的に関わる機会はないが、定期総会や研修会について事務局からご案内し、任意でご参加いただいている。

会議資料13ページの表のとおり、令和6年度には加盟団体数が過半数を割り（42%）、組織の目的（会議資料に記載の会則第3条を参照）を達成するには非常に困難な状況である。

昨年12月に「県社連」の会議が開催され、「県社連」の今後の方向性として、『令和7年度末をもって解散する』こととし、「県社連」解散後は、再び全県下でまとまって活動していくことになった際に備え、各市町村及び各地区は、社会教育委員による関係諸活動をこれまで同様に進め、足元をしっかりと固めることを主眼におく、という考えが示された。

「埼玉振興会」における「県社連」の解散に向けた意向の取りまとめを行うため、2月13日に「埼玉振興会」の会議を開催し、『解散もやむを得ない』という考えが多くを占めた。

他の地区においても、「県社連」の解散に向けた意向の取りまとめを行うための理事会等が開催されており、3月19日開催の「県社連」理事会において各地区の意向の取りまとめ結果の確認を行い、具体的な内容を協議する予定である。

越谷市が「埼葛振興会」から退会もしくは「埼葛振興会」が「県社連」から退会という話ではなく、越谷市が加盟している組織のさらにその上部組織自体の現状についての報告であり、「県社連」の今後についての進捗については、改めてご報告する。

○議長 埼玉県は、県レベルのこの会がすごく弱体化してしまったという経緯があり、資料のとおり62団体あるはずのところ、26団体だけでやっている。

さらに、全国で輪番で行っている大きなイベントが7年後に埼玉であるため、この体制で耐えられるのか等を検討した結果として、また、入間地区が抜けた大きなダメージもあり、一旦、解散してはどうかという話が挙がった。5月の総会で最終決定をするが、今後、全国、関東、県とのつながりになるべく失わないようにしたいところである。生涯学習審議会の皆さんには、半分報告、半分意見聴取という形で進めさせていただいている状況である。

加盟団体が単位市町村になっているので、この会議に決定権があるわけではないが、一加盟組織として意見は言えるため、ご意見があれば率直に言っていただければと思う

○委員 過去の経緯が分からないが、入間や北足立が抜けた理由は何かあるのか。

○事務局 詳細については記録が残っていない。地区から県社連へ負担金を支払うが、それに見合った活動がされていないというような理由もあったように見受けられる。また、他の都道府県では県の教育委員会が事務局を担っているが、埼玉県は県内の市町村が輪番制で事務局を行っているという負担も大きい。

※その他会議全体について意見を求める

○委員 ウェルビーイングという話があったが、その訳として「その場の幸せを」というのをテレビで見た。そう考えると、いろんな事業をやっている公民館は、その事業、その事業で市民の幸せを作ってくれていると思う。公民館の人たちは地域の幸せを作るための最先端で働いていらっしゃるというのを感じた。今期はこの会議で終わりという事なので、感謝申し上げる。

○委員 令和6年度の各公民館の事業報告を見ると、蒲生公民館において高齢期の事業で男性参加者が多いものがある。他の地区は圧倒的に女性が多いが、何か特徴があるのか。女性は募集していないのか。

○事務局 がもう楽生塾について、基本的には定年を過ぎた男性の方が社会でどうふれあっていくかというのを目的にした講座なので、今までは男性限定で募集してたため女性は0人になっている。ただ、最近男性の参加も少ないので、女性の募集も来年度から検討してみようかという話は出ている。

○委員 男性の参加者が少ないのは、リタイアしたあとにまだ会社を引きずっているんじゃないかと思う。仕事で指示する側になっていた人がそのまま辞めると、いつまでたっても指示する側になっている。なので、リタイア後にどう地域と関わるかというような講演をやっていただくといいかと思った。蒲生公民館でそれをやめていく方向なのは少し残念だが、目的は勉強することじゃなくて、どうやって地域で仲間を作るかということかと思う。それができると、地域のことがよく分かって、自分も出歩くことができて、それがイコール健康になると思った。

やはり、リタイア後にどう地域と関わるかというのは、講座等でやっていただきたいと思う。

※青山会長が議長の職を降り、司会が進行役となる。

○事務局 事務連絡をさせていただく。

11月の第2回審議会で中間報告した市政世論調査については、正式な報告書が作成され、現在、市のホームページに公開されているので報告する。なお、11月の中間報告から内容に変更はない。

委員任期満了に伴う7月1日以降の委員の選出について、今後各選出母体へ依頼する。現在公募委員を募集中だが、公募委員の任期は原則1期としている。

5 閉 会 北畠副会長